

特集

ライフラインパニック 想定外に対応できるか!?

地震、台風、洪水…毎年のようにまざまざとみせつけられる自然災害の脅威。近年では、それに伴う停電や断水などの発生も地域・社会的に増えてきていると思われていますが、このようなライフラインの停止が医療機関に及ぶと、場合によっては人の命にかかわる想定外の“ライフラインパニック”として、われわれの前に立ちまします。

医療機関では、一口に「ライフライン」といっても、一般的な電気、ガス、水道のみならず、医療ガスや病院情報システムなども診療継続の根幹をなす重要なライフラインの一部です。被災時、そして“ライフラインパニック”の発生時には、平時より医療需要が増加するなか、これらのライフラインが限定された環境で最良の診療を行うための“究極の decision making”が求められることとなります。そして、入院患者の生命を守るためには、状況に応じ“病院避難”という厳しい決断をも躊躇せず行わなければなりません。

そこで本特集では、過去の大規模災害などで実際に想定外の“ライフラインパニック”に直面した医療機関において、各々のご施設で行われた“究極の decision making”や具体的な対応、その後の備えなどについて、取り上げることとしました。

大規模な停電や断水などがなぜ発生し・何が問題で・どのように対応したのか、さらには、病院避難や外部受援を経験した施設では何が起き・なぜその決断に至ったのかを、各施設の方々から実際の経験をもとにご解説いただきました。このような過去の現実や、その具体的な対応策を共有することで、今後も必ず発生する大規模災害において“ライフラインパニック”への対応を余儀なくされた場合の解決策を示すのみならず、有事に対する適切な準備を事前に行っておく一助にもなると確信しています。

本特集が、事業継続計画（BCP）において“想定外”を“想定内”とし、災害時の“究極の decision making”の貴重な資料となることを、期待しています。